

## 変見自在 トランプ、ウソつかない

## 後味爽やかな「高山節」が全開だ



高山正之 著

新潮社・本体一四〇〇円

326

胸のすく毒舌だ。日本人を野蠻人と書き立てるニューヨーク・タイムズや文化人気取りのバカを程度が低いと一刀両断する。返す刀で、彼らを重宝する朝日新聞をトランプが言い出したフェイクニュースの元祖と断じているところが何とも痛快だ。

週刊新潮で連載中の超辛口名物コラム「変見自在」の傑作選、待望の第12弾である。

上から目線で日本や日本人を腐したかと思えば、白人や中国、朝鮮を下から見て温かく書く。朝日の自虐的な報道姿勢は病的でもあり、読んだこちらまで不整脈にな

りそうになる。日本共産党みたい  
に「党中央に誤りはない」と無謬  
性を旗印にした言説に鉄槌を下  
す。後味爽やかな気分にしてくれ  
るのがこの書である。

筆先は主に日米を代表するこの  
2紙と腹黒い米国に向かう。戦時  
の慰安婦について「日本人が朝鮮  
人女性を拉致し、慰安婦にして戦  
場で強姦した」という嘘を世界に  
垂れ流した朝日と、その社内に東  
京支局を置くニューヨーク・タイ  
ムズが元凶だと書く。市場を席卷  
するトヨタ・プリウスを欠陥車だ  
とあげつらった米国はけさがけ  
だ。朝日は米運輸長官ラフドの

異に便乗してトヨタを「米国で欠  
陥商品の代名詞になった」とデイ  
スった。

プリウスがやり玉に挙げられた  
当時、私はワシントン特派員だっ  
たから、議会で豊田章男社長が袋  
だたきにされるのをこの目で見  
た。その嘘を1年後に米当局が認  
めたときは、はらわたが煮えくり  
かえった。デイスった朝日は天声  
人語も素粒子も一言も詫びなかつ  
たとこの書は指摘する。バカと嘘  
つきに国境はないことを改めて認  
識させられるから学びが多い。

大先輩の高山さんは産経新聞夕  
刊1面で「異見自在」というコラ

ムを連載していた。20年前のこと  
だ。その時の印象で言うと、高山

さんの好敵手は、何と言ってもニ  
コラス・クリストフだった。ニュ  
ーヨーク・タイムズ元東京特派員  
で、記事のインチキぶりには今で  
も定評がある。中国系米国人の妻  
を持つクリストフは日本人は中国  
人の子供を殺してその肉を食った  
と話を脚色し、日本人は野蠻だと  
書き続けたという。尖閣諸島では  
ろくに調べもせず、「中国に分が  
ある」と書き、ふだんは腰の重い  
外務省に反論されている。

朝日の読者が多い団塊の世代が  
減ってきたから朝日は嘘を書き続  
けず、真実を書く訓練を始めた方  
が良いと論ず。「高山節」にはま  
た読みたくなるという常習性があ  
る。早くも次作が待ち遠しい。

産経新聞九州総局長 佐々木類

読書の時間

### 陸軍中野学校

山本武利著

筑摩選書、  
本体一七〇〇円



黒地の紙に墨で字が書いてある  
が、どのようにすれば判読できる  
か」。特殊な学校だけあって、  
試験の内容も考えさせられる。隣  
に陸軍憲兵学校がありながら、そ  
この生徒も隣に陸軍中野学校があ  
ることに気付かなかったという。

近年、発掘された公文書をもとに  
秘密のベールに包まれた諜報員養  
成機関の全貌が明かされる。

前身の学校を合わせても7年余  
りの歴史で、卒業生は2300人  
余。創立当初は、長年にわたって  
他国に滞在する「長期忍者」の育  
成が意図されていたが、戦局の変

化で即戦力が求められるようにな  
っていく。卒業生は大陸や南方で  
の諜報戦に投入され、学校創立者  
の一人は「中野出身の将校が戦線  
のあちこちであげた輝かしい功績  
をいちいち列挙することはとうて  
いできない相談である」「彼らの  
勤務成績は抜群であって、積極的  
に危機に赴く勇氣、謀略、諜報な  
どの処理能力等はどうてい一般將  
兵の追隨を許さぬものがあつた」  
との証言を残している。

しかし卒業生は戦後、多くを語  
らず、結果として著者は「中野の  
伝統は現在の自衛隊には受け継が  
れなかったと見てよからう」「そ  
れにしたがって日本人のインテリ  
ジェンスの意識もリテラシーのレ  
ベルも、江戸時代のそれに退化し  
てしまったと言つてよからう」と  
記す。これでよいはずがない。